

## 東カリブ諸国機構（O E C S） 6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2020年11月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

### 1. 概況

- セントビンセント総選挙で、ゴンザルベス首相が5期目の再選を果たした。与党は1議席を増やしたものの、総投票数では野党が上回り、ドゥーガン総督は、首相宣誓式で与野党の協議を呼びかけた。
- 一部の国で感染者が増加傾向にあり、多くの国が入国の際に事前のPCR検査を義務付けた。9月に設置されたカリコム旅行圏は有名無実化しつつある。セントルシア及びセントビンセントでは、デング熱患者も千人を超えている。
- セントキッツの国境再開に伴い、米国等とのフライトが再開された。セントビンセントは、来年6月からロンドンとの直行便が初めて就航すると発表。
- 宇都外務副大臣は、グリーン・アンティグア外務大臣とのビデオ会談を実施した。30日にはサルガッサム海藻対策のための無償資金協力の交換公文のオンライン署名式が実施され、ブラウン首相他が出席した。

### 2. 内政

#### （1）新型コロナウイルス

- 1日付セントキッツ紙は、ブラウン・アンティグア首相は、感染者の増加に伴い、各国はカリコム旅行圏から離脱していると述べたと報道。3日、セントルシアは、カリコム旅行圏からの渡航者にも到着7日前までに実施した検査結果を求める、グレナダは同旅行圏から離脱したとの声明を発表。4日付セントキッツ紙は、同国はカリコム旅行圏には参加しない、入国時の手続等を発表したと報道。
- 2日付セントビンセント紙は、与党は5日の総選挙の投票者用に5万枚のマスクを調達したと報道。
- 6日付グレナダ紙は、英国での国内封鎖に伴い、ロンドンからの直行便は封鎖が解除されるまで一時停止されたと報道。
- 6日付セントビンセント紙は、バルバドスからの渡航者を除き、到着5日内実施のPCR検査陰性証明書を義務付けるとの規則改正を発表したと報道。
- 7日付セントキッツ紙は、国境再開後、初の国際線がマイアミから到着したと報道。
- 10日付セントルシア紙は、台湾は手術用マスク3万枚を寄贈したと報道。
- 12日付ドミニカ紙は、公共の場所でのマスク着用が義務化されたと報道。

- 12日付グレナダ紙は、13日寄港予定のクルーズ船は、船内で感染者が確認されたため、寄港は中止されたと報道。
- 13日付セントキッツ紙は、カナダは汎米保健機構（PAHO）を通じて、マスク3万5千枚、約1万5千の個人用保護具等を寄贈したと報道。
- 18日付セントキッツ紙は、コロナ禍の感染防止のための規制措置等の実施を可能とする法案が議会で可決されたと報道。
- 19日付ドミニカ紙は、同国はセントルシアを高リスク国に指定換えしたと発表したと報道。
- 19日付グレナダ紙は、全入国者に最大7日間の検疫が義務付けられると発表されたと報道。23日付同国紙は、全入国者に到着72時間以内のPCR検査結果を義務付けると発表したと報道。
- 20日付セントルシア紙は、新規感染者20人が確認され、総感染者総数は203人となったと報道。
- 25日付セントキッツ紙は、ケープ航空は、ネービス島空港の路線を再開したと報道。
- 28日付セントルシア紙は、フランスは、1万枚超のマスク、50台の病床、10台の心臓検査機、2台の呼吸器を寄贈したと報道。
- 28日、セントルシア政府は、現行の規制措置を12月14日まで延長すると発表。
- 30日付アンティグア紙は、検疫中の人に動向追跡のため政府が手交するブレスレットの着用が義務付けられたと報道。
- 30日付アンティグア紙は、米疾病予防管理センター（CDC）は、同国の危険レベルを先週に非常にリスクが高い国に指定したが、同国からの異論も出され、中リスクに変更したと報道。30日付セントルシア紙は、CDCは同国を高いリスクのレベル3に引き上げたと報道。

## （2）その他内政

- 5日、セントビンセント総選挙が実施され、与党統一労働党（ULP）が1議席を増やし、15議席中9議席を獲得して勝利した。6日、総選挙の結果が発表され、登録有権者数98,112人、投票率66.9%で、総投票数では野党が与党を上回った。6日、OECsは、ゴンザルベス首相に祝辞を發出し、蔡英文台湾総統も祝辞を發出。7日、キング・アンティグア選挙委員会委員を団長とするカリコム選挙監視団は、選挙は自由かつ公正に行われ、結果は有権者の意思を反映したものとの暫定報告を発表。
- 7日、再選されたゴンザルベス首相及びダニエル副首相の就任式が実施され、10日には閣僚就任式が実施され、外務大臣職はゴンザルベス首相が兼任と発表された。同式典で、ドゥーガン総督は、国民の声が二分された結果で、野党と

の対話を要請した。20日付同国紙は、ピータース首相府付外務・外国貿易大臣が指名され、30日に就任し、閣内で唯一の女性大臣となると報道。

●11日付セントルシア紙は、デング熱感染確認及び疑い患者は1,200人を超え、死者は3人と報道。24日付セントビンセント紙は、14日時点で同国のデング熱感染者は1,617人、死者は7人と報道。

●11日付アンティグア紙は、9～10日豪雨により洪水が発生し、一部の住民は避難を余儀なくされた、怪我人等は出ていないと報道。16日付同紙は、家屋や道路等への損害は、1.68億東カリブドルに及ぶと報道。

●24日付セントキッツ紙は、6～9月の犯罪件数は、前年同期比で大きく増加したと報道。

●26～27日付グレナダ紙は、ベルナディーン野党国民民主党(NDC)党首は、健康上の理由により辞任し、トーマス副党首が党首代行に指名されたと報道。

●26日付セントルシア紙は、同国警察は、今年の犯罪件数は、昨年同期比で16.6%減少していると発表したと報道。

●26日付地域紙は、25日、ブラウン・アンティグア教育大臣が女性からの告発を受けて辞任し、その後逮捕された、新教育大臣にはマシュー・スポーツ大臣が就任したと報道。

### 3. 経済

●1日付アンティグア紙は、7ヶ月運休していたLIAT航空は、アンティグア・ドミニカ間の運航を再開したと報道。

●3日付セントキッツ紙は、鮮魚による食中毒が多発したため、バセテール魚市場は閉鎖されたと報道。27日、農業省は、同魚市場は再開されたと発表。

●3日付セントビンセント紙は、バージン・アトランティック航空は、21年6月からロンドンとの直行便週2便を就航させると発表したと報道。

●9日付グレナダ紙は、米国の300万米ドルの支援により、カリアク島に災害緊急対応センターが開所したと報道。

●12日付セントビンセント紙は、20～25年にホテルやアパート等の総額10億ドルの建設ブームが起き、ペティーマスティック島には5億米ドルを投じるホテル等が建設予定と報道。

●18日付セントキッツ紙は、ネービス島保健大臣は、台湾が同島に非感染性疾病対策の専門家を再度派遣したことに感謝すると述べたと報道。

●18日付セントルシア紙は、政府は観光税として、12月から旅行者1泊1人あたり3米ドル(宿泊料120米ドル以下の場合)又は6米ドルを課すと発表したと報道。

●24日付セントビンセント紙は、台湾は糖尿病検査キット調達のため21万

2千米ドルの支援を提供したと報道。

#### 4. 外交

●今年から国連安保理非常任理事国を務めるセントビンセントは、11月安保理議長国を務めた。3日に議長国就任式典が行われ、ゴンザルベス首相がオンラインで演説を行った。

●7～9日付地域各紙は、各国首脳は、バイデン次期米大統領に祝辞を発出したと報道。

●19日、第4回OECS特別首脳ビデオ会合が開催され、スケリット・ドミニカ首相が議長を務め、コロナ禍対策を中心に、ワクチン、検査体制等につき協議された。

●23日、OECSは、東カリブ証券規制委員会の権限を強化する改訂協定が署名され、発効したと発表。

●26日、宇都外務副大臣は、グリーン・アンティグア外務大臣とのビデオ会談を行い、二国間関係、日カリコム関係、国際場裏での協力等を協議した。

●28日付グレナダ紙は、ジョージアとの間の査証免除取決めが23日に署名されたと報道。

●29日、OECSは、カリブ開発銀行及びカリコムIMPACS（治安及び安全保障実施機関）と協力して、東カリブ地域での統一国境制度の開始を発表し、既存の海上の乗客及び貨物事前通報制度を統合する単一窓口を設置すると発表。

●30日、アンティグアへのサルガッサム海藻対策機材調達に関する無償資金協力2億円の交換公文署名式（オンライン）が実施され、ブラウン首相（ジョセフ保健・環境大臣他同席）及び平山大使が署名し、ブラウン首相は日本の支援に深く感謝すると述べた。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。